

事例3 身近な人々との交流から、進んで触れ合いを楽しむことをねらった事例

- 学年 第1学年
- 主な領域 季節の変化と生活 内容(5)
生活や出来事の伝え合い 内容(8)
- 事例のポイント
 - ①身近な人々と繰り返し関わるための活動を工夫する。
 - ②自分の思いや願いをもってより主体的・対話的に活動できるようにする。
 - ③幼小の接続を意識し、幼稚園教諭と小学校教諭が連携を行う。

1 単元名 「ふゆと ともだち」 ～おしょうがつの あそびを しよう～ (17時間)

2 単元について

(1) 児童の実態について

本学級の児童は、学校探検の後に自分達だけで学校を回って「見つけたよカード」を書いたり、休み時間には、学校前の広大な土手で虫探しをしたり、花が枯れた後も熱心にアサガオの観察を続けたりと、身近な自然や事物に興味をもち、進んで対象に関わろうとしている。秋は、校外学習で見つけてきた木の実や葉で遊びながら、自分達の作った様々な遊びを楽しんでいた。

隣接する幼稚園の年長児とは、1学期から継続的に交流を重ねている。土手での遊びや園庭で遊んだり小学校の校庭で弁当を一緒に食べたりする中で、自分から幼児に話しかけたり優しく接したりする姿が見られるようになってきた。また、「あきとあそぼう」の活動に年長児を招待することになり、自分達の作った遊びで一緒に遊んだ。ルールが分からなかったり、どの遊びに入ったらよいか迷ってしまったりする年長児を見て、分かりやすく絵を使って説明したり、看板や地図を用意したりするなど、相手意識をもって遊びを工夫する姿が見られた。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、児童の実態と小学校学習指導要領の内容(5)「季節の変化と生活」を受けて設定したものである。ここでは、季節の行事や伝統的な遊びの保存・継承に携わる人々と関わる中で気付いたことを、毎日の生活に生かし、自分自身の暮らしを楽しく充実したものにしてほしい気持ちをもたせたい。また、内容(8)「生活や出来事の伝え合い」については、身近な幼児や高齢者などの多様な人々と交流する活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしながら身近な人々と関わることのよさや楽しさを感じられるようにしたい。

また、本校は、幼小中連携教育を推進している。6年間を通して自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、校種をこえて交流する活動を、各単元において重要視し積み重ねている。第1学年は、年間通じて同じ対象である年長児と繰り返し関わることを通して、子供同士の自然な関わりをもてるようにしている。



← 【幼小中連携の様子】

編 P87 指導計画作成留意事項(4)

【児童が幼児と
繰り返し交流する様子】



<虫とりでの交流>

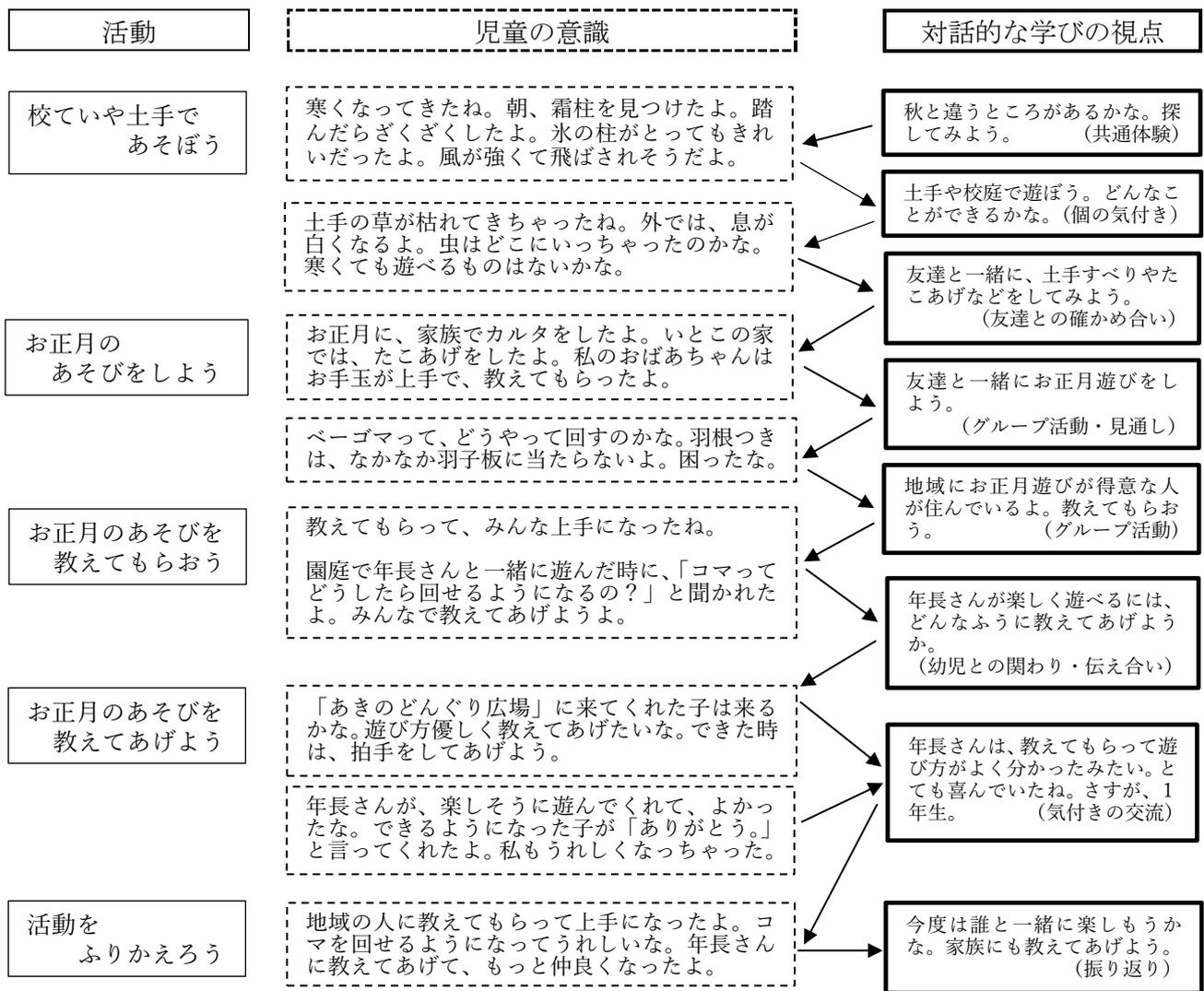


<休み時間の交流>



<小学校体験での交流>

(3)児童の意識の流れ



3 単元の目標

冬の自然を観察したり、お正月遊びの仕方やそのよさを身近な人々と伝え合ったりする活動を通して、四季の変化や季節の特徴を確かめたり、友達や地域の人達のことを想像して伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、自然の特徴や四季の変化によって生活の様子が変わること、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、冬の遊びやお正月遊びを生活に取り入れたり、進んで触れ合い交流したりして、自分の生活を楽しくしようとする。

4 単元の評価規準と小単元の評価規準 (17時間扱い)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	冬の自然を観察したり、お正月遊びの仕方やそのよさを身近な人々に伝え合ったりする活動を通して、自然の特徴や四季の変化によって生活の様子が変わること、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かっている。	冬の自然を観察したり、お正月遊びの仕方やそのよさを身近な人々に伝え合ったりする活動を通して、四季の変化や季節の特徴を確かめたり、友達や地域の人達のことを想像して伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	冬の自然を観察したり、お正月遊びの仕方やそのよさを身近な人々に伝え合ったりする活動を通して、冬の遊びやお正月遊びを生活に取り入れたり、進んで触れ合い交流したりして、自分の生活を楽しくしようとしている。

小単元における評価規準	1	①冬には、影・風・氷・雪などの性質を使った遊びがあることや、自分たちの生活は季節によって様子や遊びが変わることに気付いている。	①冬の特徴を確かめながら身近な自然を楽しんでいる。	①楽しみたいという思いや願いをもって、身近な自然と触れ合っている。
	2	②自分たちの生活や遊びは、季節によって様子が変わることに気付いている。 ③相手に応じて、様々な伝え方があることに気付いている。 ④自分のことや伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。	②お正月遊びを地域の人達に教わったり、自分で選んで遊んだりしながら、それぞれの遊びの特徴や季節との関わりを見付けている。 ③幼児のことを考えて、伝える内容や伝える方法を選んでいる。 ④幼児のことを考えて、伝えたいことや伝え方を選んだり、工夫したりしている。	②楽しみたいという思いや願いをもって、お正月遊びを教わったり遊んだりしている。 ③幼児にお正月遊びを伝えたいという思いをもち、進んで触れ合い交流をしようとしている。
	3			④冬ならではの活動や四季の生活の変化について関心をもち、これからも積極的に自然と遊んだり伝統的な遊びに触れたりして生活を楽しくしようとする。

5 指導と評価の計画（主に小単元2について）

小単元名（時数）	主な学習活動		
1 学校の周りや土手で冬を見つけよう (2)	秋との違いに目を向け、草花や虫、空などから季節の変化を感じ取ったり、冬休みに触れた日本の文化や社会の行事について共有しながら関わったりする。		
2 お正月の遊びをしよう (13)	主な学習活動	小単元の評価規準との関連	評価規準から想定した具体的な児童の姿
	①お正月遊びをする。(4)	知・技② 思・判・表② 態②	<ul style="list-style-type: none"> 冬休みに遊んだものやことを想起しながらお正月遊びをし、季節と遊びの変化に気付いている。(行動・発言) 自分で遊びを選び、繰り返し挑戦しながら遊びの特徴や季節との関わりを見付けている。(行動・会話・カード) 自分で遊びを選び、楽しみを探しながら積極的に遊んでいる。(行動・会話・つぶやき)
事例のポイント① 身近な人々と繰り返し関わることで、自分と社会との関わりを意識できるようにした。	②お正月遊びを教えよう。(2)	知・技③ 態②	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人達と交流する際、適切な言葉遣いや話し方を選んでやりとりしている。(会話) 自分で遊びを選び、積極的に教わったり繰り返して遊んだりしている。(行動・会話・つぶやき)
	③お正月遊びを教え合う。(6)	知・技④	<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意な遊びや気に入った遊びを、相手意識をもって教えたり一緒に遊んだりしている。(行動・会話・カード)

<p>事例のポイント② 児童の思いや願いから、対象を、より関わりの深い幼児に替えることで、目的をもって主体的・対話的に活動できるようにした。</p>	 <p>④お正月遊びを教えてあげる。 (1)</p> 	<p>思・判・表③ 態③ 知・技④ 思・判・表④ 態③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意な遊びや気に入った遊びを見付け、遊びの楽しさを考えたり、遊びを伝える方法を決めたりしている。(行動・会話・カード) 幼児にお正月遊びを伝えたいという思いをもち遊びながら気付いたことや考えたこと、こつなどを進んで伝えようとしている。(行動・発言・カード) 幼児の気持ちを考えて教えたり一緒に遊んだりする中で、気持ちがつながることのよさやうれしさに気付いている。(発言・会話) 幼児のことを考えて伝えたいことや伝え方や、言葉の表現を選んでいる。(発言・行動) 友達や幼児と進んで話したり触れ合ったりしながら遊ぼうとしている。(行動・会話)
<p>3 楽しかったことを伝え合おう (2)</p>	<p>遊んでいて楽しかったことや気付いたことなどを振り返り、絵や文で表して発表する。</p>		

6 本時の学習指導 (小単元2 13/13時)

(1) 目標

- ・幼児にお正月遊びを教える活動を通して、幼児のことを考えて表現を選び、気持ちがつながることのよさやうれしさに気付くことができるようにする。

(2) 展開

児童の活動・意識	評価 (●) と支援 (○)	時間
<p>1 始めの会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会の児童を中心に会を進める。 ・本時の活動を確認する。 <p>おしょうがつあそびでいっしょにあそぼう。</p> <p>自分の好きな遊びを、優しく教えてあげよう。</p> <p>この前遊んだ友達は、来てくれるかな。</p> <p>年長さんが分かるように、ゆっくりと話してあげよう。</p> 	<p>○1年生と年長児全員で始めの会を始めるために、オープンスペースを活用して児童と年長児が対面して話が聞けるようにする。</p> <p>自分達の楽しんできた遊びを幼児も楽しみ、できるようになってもらいたいという気持ちの高まりから、主体的に会に参加できるようにする。(興味や関心の喚起) (見通し)</p> <p>編 P87 指導計画作成留意事項(2)</p> <p>事例のポイント② 児童がより主体的・対話的に思いを伝え合い交流していけるように、特に重視したい教師側の視点を明確にして指導内容に明記するようにした。</p> <p>○後の話合いで、楽しかったことやうれしことをスムーズに出し合えるように、幼児の表情や様子をよく見ながら遊ぶよう話し、児童なりの見通しをもたせる。</p> <p>○始めの会が終わったら、グループごとに遊びの準備をする。</p> <p>○音楽を流すことを合図に、遊びを始められるようにする。</p>	<p>5</p>

2 幼児と一緒に遊ぶ。

迷っている子がいたら、私が優しく話しかけてあげよう。

どうやったらできるか、分かりやすく教えてあげよう。

上手にできたら、拍手をしてあげよう。

一緒に競争したら、楽しんでくれるかな。

事例のポイント①

1学期に行った虫とり交流や、2学期に行った「秋とあそぼう会」などの経験から、名前を知らない幼児でも自然と関わられるようになっていた。

事例のポイント③

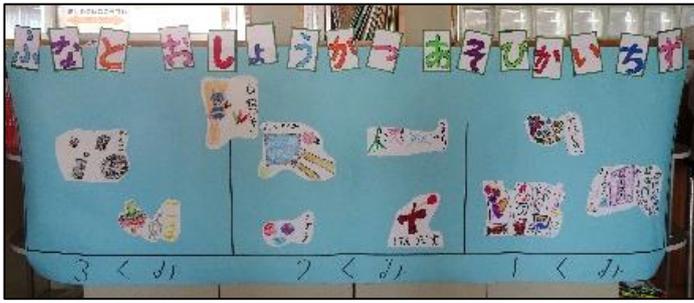
学習のめあては小学校側と幼稚園側双方で立てそれを共有し、打ち合わせを行った。

教師の援助の仕方は、間接的に仲介するという共通理解のもと、幼稚園教諭と小学校教諭で統一して支援した。



私が手伝おうか。

○したい遊びを迷っている幼児がいたら、話を聞いて案内してあげられるように、児童に促す。



【遊びマップ】

○幼児が遊びを楽しんだ後や、上手にできた時に、言葉で褒めたり拍手をしたり、笑顔で接したりするように知らせる。

○遊びが上手にできた時の幼児の気持ちを受け止め、一緒に喜びを共有するために、幼児の表情や行動に注目するように促す。

○T2（幼稚園教諭）は児童と幼児の会話に耳を傾け、状況に応じて意図的に気持ちを考えさせることで、互いの思いを感じたり伝え合ったりできるよう仲介する。



ぼくが巻いてあげるよ。貸してごらん。



よく遊び方を言うから、よく聞いていてね。

後ろでとめてあげるね。



できているね。そうそう。上手に



自分達のグループの遊びを、幼児に楽しんでもらえているか考え、声のかけ方や遊びの教え方を工夫させる。(伝え合い) (試行錯誤)

事例のポイント②

児童がより主体的・対話的に思いを伝え合い交流していけるように、児童にも幼児にも様子を聞きながら、一つ一つの遊びや会話が盛り上がるように支援して回った。

●幼児のことを考えて伝えたいことや伝え方や、言葉の表現を選んでいる。【思・判・表—④】(発言・行動)

3 振り返りをする。

編 P87 指導計画作成留意事項(3)

事例のポイント③

幼稚園教諭・小学校教諭共に幼児期の学びと育ち、教育課程のつながりを十分に理解し、幼児も児童も発達段階に応じて話し合いに参加できるよう支援した。

・教師の指示を聞き、グループごとに話し合いをする。

年長さんが「できた!」と言ってくれてうれしかったよ。

一緒に競争したら喜んでくれたよ。

年長さんが「ありがとう」と言って笑ってくれたよ。

年長さんがぼくのことを「すごいね」と言ってくれたからなんだかうれしくなったよ。

- T1 (小学校教諭) が話し合いの仕方を知らせる。
- グループごとに担当教師を決め、話し合いを見守る。(1グループ児童3~4人、幼児8人で構成する。グループは、事前に決めておく。)
- 各グループの話し合いは、児童が中心となって進められるように、柱となる話題を全体で共有する。幼児に、遊んで楽しかったことやうれしかったことを、理由も考えながら話せるようにする。児童も感じたことやうれしかったことなど話す。
- なかなか話し合いが進まないグループには、「どうして楽しかったのかな」「どうしてそういう気持ちになったのかな」などと問いかけ、具体的な気持ちを引き出し、互いの思いを伝え合えるようにする。
- 楽しかったことを十分伝え合えたグループには、うれしい気持ちや感謝の気持ちなど、関わりに視点を当てた感想も出し合えるように、助言する。
- T1はT2と話し合いの内容を発表前に共有し、全体で共有できそうな話題を絞っておくようにする。



うれしかったことや楽しかったことはある?

私は、折り紙を教えてあげた子が、自分でできて喜んでいたので見てうれしくなったよ。

事例のポイント②

1年生が思いを感じたことを発表し、その後幼児にも思いを尋ねるようにした。どんな遊びをしていたか教師が把握し、具体的な場面を想起できるように支援した。

・各グループで振り返ったことを発表する。

年長さんがニコニコしてくれたから、私もニコニコになったよ。

教えた子がコマを1回回せたよ。うれしかったよ。

- T2がグループの児童や幼児を支援しながら、話し合いのポイントに沿った内容を発表できるようにする。
- 全体で共有したい気持ちや考えは、幼児に分かる程度に簡単に板書する。

自分達が教えてあげたことで、幼児達に楽しんだり喜んでしてもらえたということへの手応えや自信を得られるようにする。(振り返り)

●幼児の気持ちを考えて教えたり一緒に遊んだりする中で、気持ちがつながることのよさやうれしさに気付いている。

【知・技—④】(発言・会話)

- 児童が自分なりに変容や学びの自覚ができるように、本時の交流を簡単に振り返る。
- また一緒に遊ぶことを約束して、これからの関わりにも期待できるようにする。

4 終わりの会をする。

- ・司会の児童を中心に会を進める。
- ・幼児とお別れを言う。

教えてあげられてよかった。
また今度一緒に遊ぼうね。

印刷されている表題の「はっ
けんしたこと」を、自らの気
持ちで「うれしかったこと」
に書き換えて表現している。

ようちえんの子が一まんのかずをこえた人もいて、三ま
いしかとれなかった子もいる。でも、みんなあきらめない
でがんばっている人もいて、いろいろな人がめんこをすき
になって、とってもうれしかった。

- ・ 幼児の様子をめんこの出来栄だけでなく、がんばる姿か
ら感じ取って文章にしている。また、絵の中でも幼児が
「できた」と言う姿を表現し、主体的に関わった様子があ
らえる。
- ・ めんこを自分の遊びとしてとらえ、それを通して気持ちがあ
らゆるよさやうれしさを感じている。



7 本実践を振り返って

「あきとあそぼう」での活動をふまえ、自然や身近にある物を使って遊ぶことを楽しむ活動を重点に置いた学習も考えられる単元であったが、年間通じて大切にしてきた幼児との関わりに児童自身の思いも引き寄せられる形で、交流活動に重点を置く学習となった。

対象となる相手に何度も関わり、関わるのが自然な流れとなったことで、交流を通じて身近な人々と関わることのよさや楽しさを感じられるような学習になったと感じる。

進級した時には、1年生の入学を心待ちにし、友達になった子を探して声をかける姿も見られた。今後も、本校の立地条件を生かし、様々な活動を通して繰り返し対象に関わる機会を設け、身近な人々と触れ合うことを楽しめるような学習活動を工夫していきたい。



【児童のワークシート】

〇〇くんという男の子がこまをまわせるようになり
ました。その子はさいしょなげつけるようにまわ
していましたが、なので「なげるんじゃなくて、水き
りみたいにしゅっとまっすぐなげるといいよ」とい
ったら、とてもおいしいところまでいきました。ちよ
っとかんがえてみたら、「もしかしてひくのがおそ
いかな」とおもいました。なので、「すぐひくと
いいんだよ!」といったそばから、〇〇くんがまわ
せました! それでわたしもとってもうれしかったで
す。こんどはちがう子たちに〇〇くんがおしえてあ
げて、みんなに「こまはたのしいんだな」とおもっ
てもらいたいです。

- ・ 幼児と進んで交流する様子が、文章からも絵から
も十分に見取れる。
- ・ 幼児がどうしたらコマを回せるようになるか、自
分なりに試行錯誤し、伝え方や言葉の表現を選ん
で伝えられている。
- ・ 幼児の喜びを自分事として共感し、気持ちがあ
らゆるよさや楽しさを感じている。